

平成20年熊本県観光統計について（概要版）

1 本県の観光客数及び観光消費額

平成20年1月1日から平成20年12月31日までの観光客推計値

（観光客総数及び日帰客数、観光消費額の前年数値は、平成17年1月1日現在の市町村単位で集計していたものを、平成20年12月31日現在の市町村単位での集計値に置き換えたものです。）

観光客数

	平成20年（平成19年）	対前年比
観光客総数	5,812万人（5,936万人）	-124万人（2.1%減）
宿泊客数	680万人（691万人）	-11万人（1.6%減）
日帰り客数	5,131万人（5,245万人）	-114万人（2.2%減）

外国人観光客数

	平成20年（平成19年）	対前年比
外国人観光客総数	1,397,200人（1,594,700人）	-197,500人（12.4%減）
宿泊客数	359,800人（398,400人）	-38,600人（9.7%減）
日帰り客数	1,037,400人（1,196,400人）	159,000人（13.3%減）

観光消費額

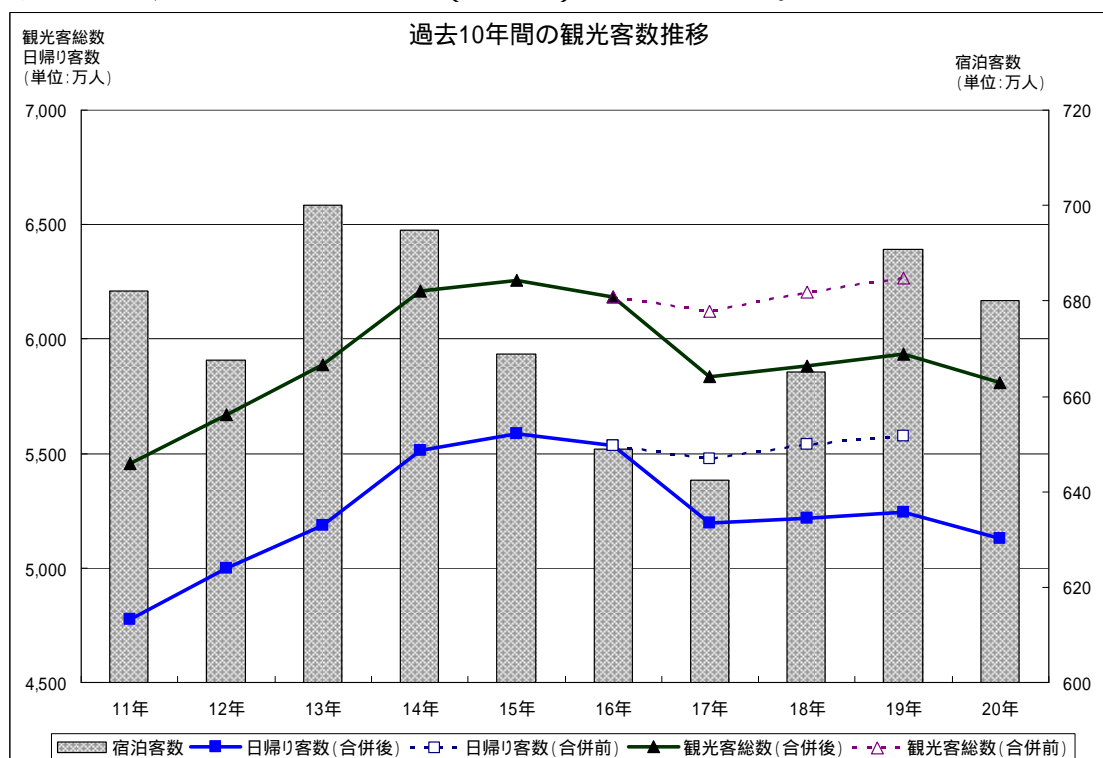
	平成20年（平成19年）	対前年比
観光消費額	2,694億円（2,645億円）	+49億円（1.8%増）

2 概況

本県の平成20年の観光動向は、原油価格の高騰や世界的不況の影響等により、宿泊客数は前年を11万人下回る680万人（1.6%減）となり、日帰り客も114万人減少（2.1%減）し、宿泊客・日帰り客を合わせた観光客総数は、対前年比2.1%減と3年ぶりに減少した。

とりわけ外国人宿泊客は、下半期以降の減少が著しく、通年では、過去最高であった前年を約3万8千人下回り（9.7%減）8年ぶりに減少した。

しかしながら、観光消費額は、熊本城「本丸御殿」の一般公開に伴う熊本市の観光客数の大幅な増加により、県全体で49億円（1.8%）の増となった。



3 地域別動向

地域別に見ると、熊本市が、熊本城「本丸御殿」の一般公開に伴い熊本城の入場者数が203万人(+82.4万人)と、全国の城郭で1位となったほか、熊本城を舞台とした祭り、イベント等の盛況により、宿泊客と日帰り客を合わせた観光客数は571.8万人(+104.8万人)と、大きく増加した。

また、人吉・球磨地域も「青井阿蘇神社」の国宝化に伴う入込数増加(+6.5万人)等によって、宿泊客、日帰り客とも増加したほか、八代地域も「全国花火競技大会」(+3.0万人)や、「道の駅竜北」(+24.9万人)等の盛況、宿泊施設の新設等により宿泊客、日帰り客とも増加した。

菊池地域は、大津町、菊陽町を中心に6年連続で宿泊客が増加している。

しかしながら、その他の地域では、原油価格の高騰、景気低迷の影響や、円高による外国人観光客の減少等により、主要観光施設や温泉施設等が集客数を落とし、県全体では宿泊客、日帰り客とも前年を下回った。

地域別観光客数(単位:万人、()内は対前年比)

	宿泊客	日帰り客	観光客総数(+)
熊本市	207.5 (+6.3%)	364.3 (+34.0%)	571.8 (+22.4%)
阿蘇地域	209.6 (-8.5%)	1501.6 (-7.7%)	1711.2 (-8.1%)
天草地域	52.6 (-10.8%)	336.1 (-4.3%)	388.7 (-5.2%)
山鹿・鹿本地域	49.3 (-0.6%)	347.7 (-4.7%)	396.9 (-4.2%)
玉名・荒尾地域	30.5 (-3.4%)	617.8 (-5.0%)	648.3 (-4.9%)
菊池地域	54.5 (+3.1%)	702.3 (-4.3%)	756.8 (-3.8%)
八代地域	20.6 (+6.4%)	298.0 (+15.1%)	318.6 (+14.5%)
人吉・球磨地域	25.6 (+4.6%)	258.4 (+5.7%)	284.0 (+5.6%)
水俣・芦北地域	14.2 (-0.2%)	151.1 (+5.0%)	165.3 (+4.5%)
宇城地域	8.8 (+1.3%)	359.1 (-9.2%)	367.8 (-9.0%)
上益城地域	6.9 (-0.7%)	195.1 (-4.7%)	202.0 (-4.5%)
県計	680.1 (-1.6%)	5,131.4 (-2.2%)	5,811.6 (-2.1%)

4 観光消費額

平成20年の観光消費額は、宿泊客によるもの1,021億円、日帰り客によるもの1,673億円、合計2,694億円となり、対前年比1.8%の増となった。

これは、熊本市の観光客数の大幅な増加に伴い、消費額が増大したことによる。

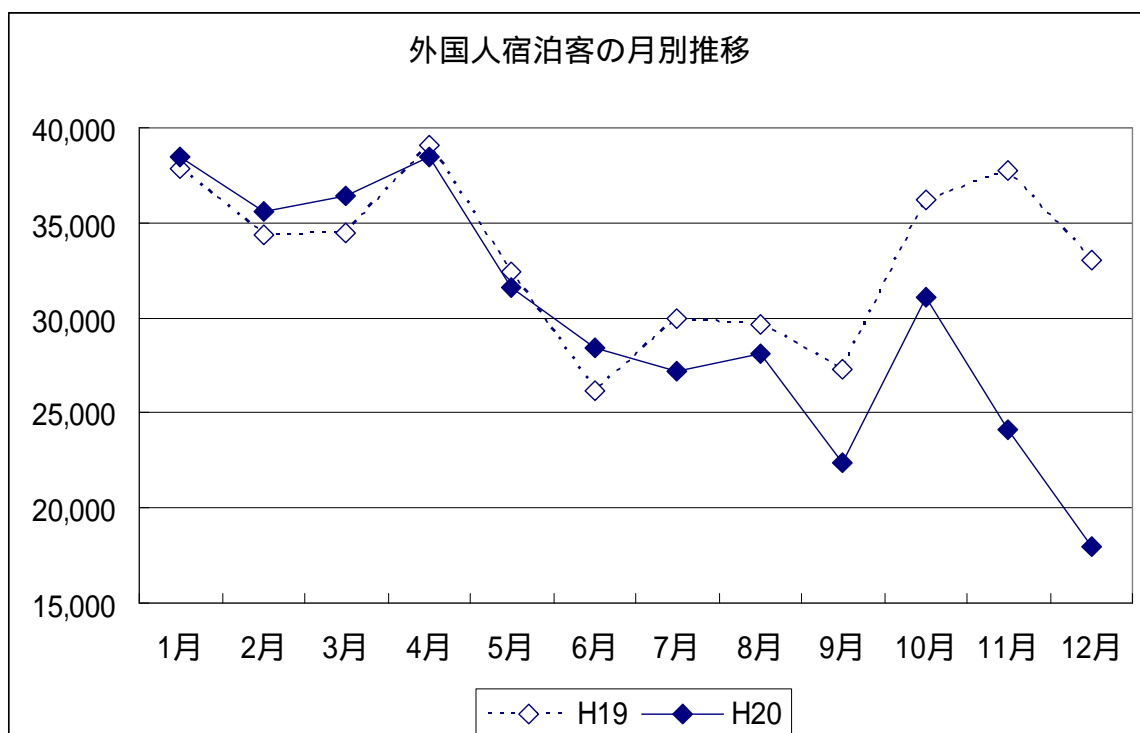
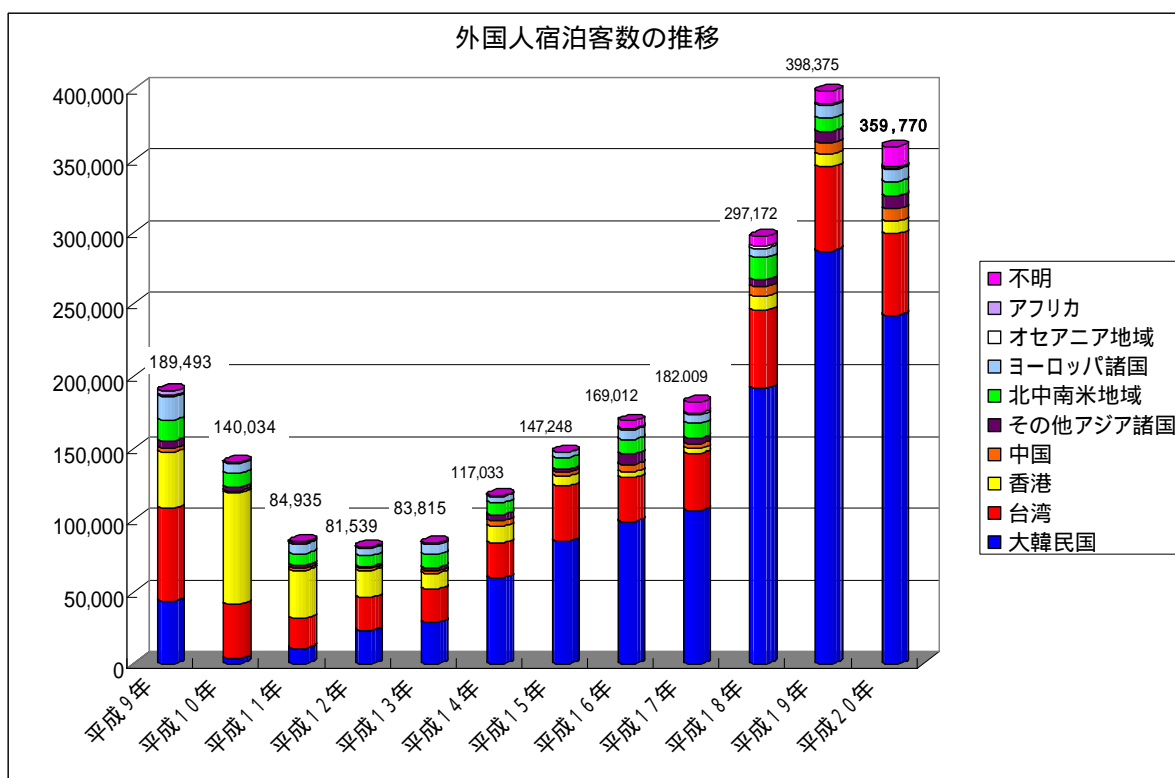
なお、観光客1人当たりの平均消費額は、宿泊客が15,018円(-135円)、日帰り客が3,261(+214円)となった。

5 外国人観光客数

平成20年の外国人宿泊客数は、上半期は前年を上回るペースで推移していたが、下半期以降、世界的不況と円高の影響等により大きく減少し、過去最高であった前年を3.8万人下回る36万人（9.7%減）となり、8年ぶりに減少した。

しかしながら、統計値としては平成18年を上回る歴代2位の記録となった。

内訳として最も多いのは、韓国の24.2万人（構成比67.4%）、次いで台湾の5.6万人（同15.7%）、中国の0.8万人（同2.4%）となっており、全体の9割以上を近隣アジア諸国が占めている。



6 市町村別ベスト10 (単位:万人)

(宿泊客数)

順位	市町村名(前年順位)	宿泊客数(対前年比)
1位	熊本市(1)	207.5 (106.3%)
2位	阿蘇市(2)	85.9 (98.3%)
3位	南阿蘇村(3)	49.7 (91.9%)
4位	南小国町(4)	42.4 (83.3%)
5位	山鹿市(5)	36.5 (99.8%)
6位	大津町(8)	28.0 (114.7%)
7位	天草市(6)	26.8 (91.5%)
8位	上天草市(7)	24.5 (88.7%)
9位	人吉市(11)	20.3 (105.6%)
10位	小国町(9)	20.0 (83.2%)

(観光客総数)

順位	市町村名(前年順位)	観光客総数(対前年比)
1位	南阿蘇村(1)	640.4 (86.7%)
2位	熊本市(4)	571.8 (122.4%)
3位	阿蘇市(2)	506.9 (102.8%)
4位	菊池市(3)	362.2 (91.1%)
5位	山鹿市(5)	335.2 (98.4%)
6位	天草市(6)	263.5 (96.3%)
7位	荒尾市(7)	216.9 (93.0%)
8位	大津町(9)	193.1 (100.7%)
9位	八代市(10)	189.4 (112.0%)
10位	玉名市(8)	182.1 (99.4%)

(外国人宿泊客数)

順位	市町村名(前年順位)	観光客総数(対前年比)
1位	阿蘇市(1)	12.1 (104.0%)
2位	熊本市(3)	6.3 (96.3%)
3位	南阿蘇村(2)	6.2 (78.9%)
4位	小国町(6)	2.6 (127.3%)
5位	南関町(4)	2.1 (65.1%)
6位	荒尾市(5)	1.7 (76.9%)
7位	南小国町(7)	1.2 (87.9%)
8位	菊池市(9)	0.6 (66.3%)
9位	産山村(8)	0.6 (56.3%)
10位	山鹿市(13)	0.5 (191.5%)

7 施設別入場者数 ベスト10 (単位:万人)

順位	施設・地点名 (前年順位)	入込客数 (対前年比)
1位	阿蘇ファームランド (1)	332.3 (81.6%)
2位	熊本城 (5)	203.9 (167.8%)
3位	阿蘇山上駐車場 (-)	148.6 (93.4%)
4位	道の駅竜北物産館 (6)	141.9 (121.3%)
5位	七城メロンドーム (2)	132.9 (97.1%)
6位	道の駅大津 熊本文化の森 (7)	125.6 (110.5%)
7位	大観峰茶店 (4)	119.4 (94.4%)
8位	俵山交流館 萌の里 (8)	102.7 (101.8%)
9位	グリーンランド (9)	88.7 (93.5%)
10位	フードパル熊本 (12)	87.7 (111.4%)

8 祭り・イベント入込み数 ベスト10 (単位:万人)

順位	施設・地点名 (前年順位)	市町村名	入込客数
1位	藤崎八幡宮秋季例大祭(6)	熊本市	30.0
2位	くまもと春の植木市(1)	熊本市	29.8
3位	JA 植木まつり(3)	合志市	28.6
4位	やつしろ全国花火競技大会(5)	八代市	28.0
5位	火の国まつり(4)	熊本市	26.0
6位	築城400年祭「エピローグ未来へ」(-)	熊本市	19.5
7位	火の国YOSAKOI祭り(-)	熊本市	15.8
8位	八代妙見祭(7)	八代市	15.0
9位	城下町大にぎわい市(9)	熊本市	13.7
10位	うと地蔵祭り(13)	宇土市	12.4

